

学校通信

平成27年9月29日
北九州市立飛幡中学校
全国学力調査特集号

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

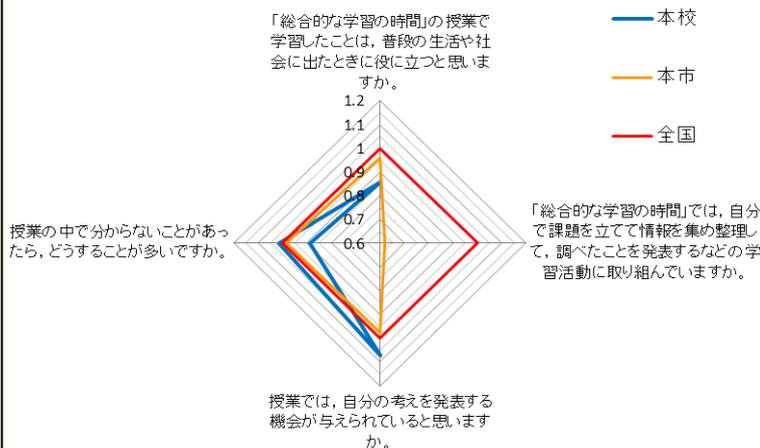
日ごろより、本校の教育活動へのご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
さて、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を上回っている。	全国平均をかなり上回ることができた。 基本的な内容の定着が図られた。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	全国平均をわずかが下がっているものの、文章を読み取り、自分の考えを書くような力はついてきているが、状況に応じて資料を活用し書く力に課題がある。
数学A	全国平均正答率を上回っている。	全国平均をわずかが上回ることができた。 基礎的な学力の定着が図られている。
数学B	全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率をやや下回っており、特に図形の性質についての応用に課題がある。
理科	全国平均正答率を下回っている。	全国正答率をやや下回っており、科学的思考や観察の技能の応用に課題がある。

発表する機会が与えられている生徒は、全国と比較しても上回って来て授業の取り組みの成果が出ている。
話し合う活動は全国とその差はなくなってきている。今後も発表する機会を増やす授業を行っていく。
情報収集・発表等の活動は全国を大幅に上回っているが、情報収集・発表等の活動を自分のものにするという意識が低い。
活動・取り組みの意義・目的を認識させ取り組む必要がある。
・今後も国語科の授業を中心に、自分の考えを書いて整理してから説明させる活動や資料から適切な情報を得て、考えをまとめ発表する活動、学校や学年行事の際にも自分の考えを発表する活動を取り入れる必要がある。

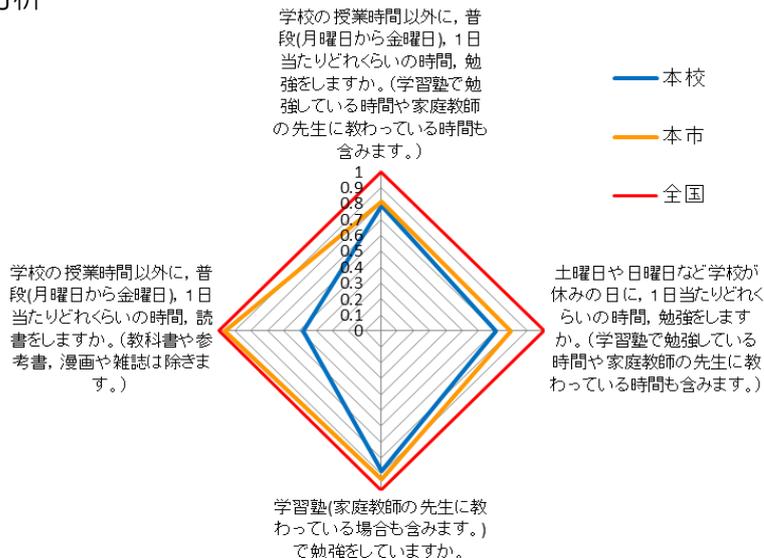


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・学習塾等に通っている生徒が少ないが、家庭学習は平日の8割の生徒が取り組んでいる。これは職員側から家庭学習の課題が多く出されていることも原因といえる。また、教科担当教師のきめ細かい一貫した指導が三ヶ年に渡り続いていることも要因の一つといえる。
- ・読書量は非常に少ないが、国語の力や理解力は十分に着いてきている。これは、国語の授業における基礎学力を定着させる多くの取り組みの成果が出てきているといえる。
- ・家で学校の宿題はしているが、自主的な取り組みを行っている生徒の割合が少なく、家庭学習の具体的な取組を指導する必要がある。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・家庭学習が多くなっている分、起床・就寝時間のずれ等がややみられ、規則正しい基本的な生活習慣を指導する必要がある。
- ・最後までやり遂げる達成感を感じていない生徒が全国に比べやや少ない。
- ・取り組みにおいて意義などを十分に理解させ、目標設定を行う必要がある。
- ・今後は、各学年で発達段階に応じた進路学習を適切に行うことで、自己肯定感を持たせるとともに、夢や目標を実現させ、人の気持ちが分かり、社会の役に立つ人間となるために具体的な進路計画を立てることで、行動に結び付けさせる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

◎ 学力向上のための特設時間の実施

- ・スケジュールにあるような漢字チャレンジや数学・英語の朝自習週間を設け、基礎学力の向上に取り組んでいる。
- ・期末考査前1週間から、全校一斉に基礎的な学習の時間を毎日50分間実施する。〈学力向上週間〉
- ・定期考査実施前に、全校一斉に基礎的な学習の時間を50分間実施する。〈学力向上タイム〉
- ・各学期3週間、国・数・英の朝自習強化期間として設定し、コンクールやテストで評価する。
- ・その際、小中連携サポーターにも活動の補助やプリントの印刷を依頼する。

◎ 過去問題・アシストシート、活用力を高めるワークの活用

- ・夏季や冬季の休業日に宿題として実施する。

◎ 「書く」「発表する」ことの習慣化

- ・学校行事や学年行事では調べ活動を取り入れるとともに、振り返りカードや感想文を必ず書き、自分の意見を発表するようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 宿題のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)

- ・学年ごとに家庭学習時間を設定し、「家庭学習のきまり」を確認する。1年生は1時間、2年生は2時間、3年生は3時間の課題学習を行う。
- ・冬休みや春休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用する。特に、新1年生に対しては春休みの課題として国語・数学の課題を与え、入学後に解答を配り、授業で指導している。
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
- ・放課後等の時間帯を利用して質問教室を実施する。
- ・家庭学習マイスター賞への応募を勧める。
- ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。